

## 近い未来、世の中がどのように変わっていくのか・・・

2月24日（火）

明日よりいよいよ学年末テストが始まります。午後の時間を有効に使って「最高の準備をして最高の結果」を期待しています。話は変わりますが日本で初めての東京オリンピックが開催された1964年とは、東海道新幹線が開通し、高度経済成長の真っ只中でした。テレビも白黒でしたが、その後カラーテレビが現れました。当時のテレビは相当高く、1970年の平均給料が6万円の時代にカラーテレビは19万円ほどしていたようです。夜、テレビがセットされて初めて映し出されたのはプロ野球の中継でした。グリーン色の鮮やかな芝生を見て「これがカラーテレビか！」と衝撃がはしかったようです。当時は新しい電化製品などを見ると「凄いなあ」の連続だったようですが、今のようなAIの時代が来るとは誰が想像したでしょうか。当時のアニメの世界が現実となっているのですから…。人工知能（AI）の能力が人間を追い越す日のことをシンギュラリティ（特異点）といい、ある学者の予測では2045年頃になると言われています。この頃には、これまで人間にしかできないと考えられていた、「運転」「翻訳」「接客」「手術」などの仕事も、ロボットやIT機器が行っているかもしれません。将来的には、機械ができる仕事は自動化され、人間は「新たな価値を生み出す仕事」「機械には解決できない問題への対応」に取り組むようになっていくでしょう。高校や大学の入試シーズンも最終盤ですが、文部科学省が進める「高大接続改革」に従って大学入試の在り方は大きく変わっていきます。その一つとして注目されるのが、英検やGTEC、TOEFLなど英語資格・検定試験の活用です。ある国立大学では、推薦・AO・特別選抜などを「AO入試」に一本化したのに合わせて、級・スコアによって60～2点の加点が受けられる評価方式も導入しています。大学入試にとどまらず、入学後はグローバル社会を迎えて、どんな学生にも「使える・話せる英語」の習得が求められます。15～20年後の社会を思い描くこともとても大切なことですが、その前に待ち構えている高校入試や大学入試制度がどのように変わってきたのかに関心を持つことも大切です。



### ○中野 SC によるカウンセリングマインド研修の様子(昨年度)

